

第 14 回 リデュース ヨコハマ R 委員会 議事録

日時：平成 29 年 3 月 27 日(月)

14：00～15：40

場所：松村ビル本館地下 1 階会議室

出席委員：19 名

1 開会あいさつ（3R推進課長）

年度末のお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。このヨコハマR委員会も今年度一年間色々なことを皆様のご協力をいただき、成果物も作りながら、会を重ねることにより会議になってきた。今日は議題として、A委員からの報告、他の委員の方から近況報告等をいただく予定だが、3R夢パートナー・サポーター制度についても皆様からご意見をいただきたいと思います。この制度は、平成23年度、ヨコハマ3R夢プランと合わせてスタートし、6年が経過している。改めて事務局からご説明させていただくが、この制度についても今後どう進めていけばいいのか、それぞれの皆様方おひとりおひとりの角度の中からお意見をいただき進めていきたい。今日一日よろしくお願いします。

2 委員長あいさつ（委員長）

年度末のお忙しいところ、ご参集いただきありがとうございます。これから一般廃棄物処理計画第三期を作っていく最中で、更なるごみの減量やこの委員会でも早くから取り上げていた生ごみの問題、手つかず食品の問題も次の計画の中で大きな核になってくる。こういった取組は、市民の皆様の共感を得て一人ひとりの協力が不可欠であり、ある程度、皆が同じ方向を向いて協力を得ないと成果が発揮できない。市民の皆様にとって、この問題がどのように重要な問題なのか、あるいはライフスタイルの中で、あまり無理することなく自然と自分たちや家族の将来のためにサステイナブルであるために、どうあるべきかを考える重要な会議だと思っている。限られた時間だが積極的にご意見を出していただきたい。

3 初出席の委員あいさつ

はじめまして。横浜市に市連会という組織があり、18区にいる区連長がまとまって活動している。昨年、前任者から引き続き、さまざまな委員会に出席している。今回が当委員会は初参加となるが、市民としては、G30の時に関わってきた。よろしくお願いします。

4 議事

(1) 「まるごと旬野菜」レシピ集の普及に向けた活動報告と今後の展開について

- ・事務局より資料1のとおり説明

【作成に携わった市民委員の活用事例等の発言】

- ・イベント時に一人ひとりにお会いし説明しながら配布している。コラム（野菜の保存方法など）の記事にも目が留まっている。制作にあたり栄養士が入っているので、小さい子どもを持つお母さんにも好評。
- ・乳幼児のイベントで配布している。保存方法などの豆知識が分かりやすい。若い世代のお母さんは核家族化で知識として知らない人が多い。また、子育て支援者世代は、給食をおいしいと言っていた子どもたちを思い出して作っている。更に上の世代は、クックパッドなどデジタルより冊子の方が良いと好評。
- ・レシピ集もアイデア次第でアレンジも可能、男性にもぜひ活用してほしい。
- ・来年度以降このレシピ集の種類が増えていけばいい。

【主な意見】

- 委員長：一委員として、ぜひ続編は作ってほしい。地産地消や食育の要素を入れることは重要。この委員会で作るならば、市販のレシピ集との違いとして、長く鮮度を保つ保存方法や目利きなど買い方の工夫を載せてもらおうとクックパッドとの差別化ができるのでは。
- 委員：実店舗で、このレシピ集を活用できないか考えている。店舗の食品売り場で今夜の献立を調理師が料理しながらプレゼンするクッキングサポートというサービスがある。週1～2回実施している中、月末1回くらいこのレシピ集を使って家庭でのごみの発生抑制に繋がられる提案を考えている。なんとか市内10店舗の中で少なくとも1店舗で実現したい。
- 委員：区民祭りなどまだまだ配布できる場があるのではないかと。部数によるが回覧板に載せる手もあるのでは。使えるものを捨てている。家庭で発生していることが多いので、協力できる。
- 事務局：11月発行で区民祭りに間に合わなかった。今回市連会にはご紹介していないが、今後もきちんと説明しながら配布できる場があれば紹介していきたい。まだ在庫が9000部あるので、事務局までお声掛けしてほしい。また、区の資源化推進担当に問合せいただいてもよい。
- 委員：今回のレシピ集制作において容器包装技術について情報提供等、御協力させていただいた。最近、生鮮野菜や果物が収穫から貯蔵、販売までどういう包装がされているか、海外から入ってくる輸入加工品の包装形態はどうかなどの問合せが多い。次回作では、このような情報を載せるのも良いと思うし、協力できる。
- 委員長：そういうことは安全性、安心感にも繋がるので重要だ。

(2) びんリユースシステム横浜モデル事業報告について

- ・委員より「横浜リユースびんプロジェクト～ヒストリー～」(席上配布)のとおり説明
- ・12月のキックオフイベントでアンケートを実施し、リユースびん認知度は52%(n:286)、びんの印象については、「重い」が一番多く、2位は「手触りがよい」だった。「きれい」、「かっこいい」という意見もあった。
- ・これで環境省の実証実験は終了。来年度は、地産地消をキーワードにリユースびんを展開していく。ゆずサイダーや小松菜ジュースなど詰める中身にこだわり、消費期限を短くすることでびんの回転率を上げていきたい。

【主な質疑応答・意見】

- 委員：(情報提供として)31日にFM横浜の番組でリユースびんについて取り上げる。
- 委員：リユースびんは洗浄技術が重要ではないか。専門工場はあるのか。
- 委員：少なくなってきたが洗瓶工場がある。横浜市内だと鶴見にある。油を落とすことが課題。
- 委員：今回の横浜サイダーは実際に流通しているのか、また100%回収に向けて回収拠点についてはどう考えているのか。
- 委員：今回は1000本のみ製造し1回売り切り。(びんが)一回回ってきて割れずに保てるかどうか強度実験を確認するところまでが今回のテスト。現在は実証実験の段階で流通はしていない。アンケートでも気軽に返せるところがよいという結果があるので、最終的なゴールとしては古紙古布の回収拠点ネットワークの活用を考えているが道のりはまだ遠い。
- 委員：環境事業推進委員をやっているが、リユースという言葉自体が分からない人が実は多いのではないかと最近感じる。
- 委員：リユースびんの認知度も約50%だった。びんを返すことは知っているが、そのアクションとリユースびんが繋がっていない現状がある。
- 委員長：これほど多くの意見がでるということは注目度が高いので、次回へ繋げていただきたい。

(3) 3R夢パートナー・サポーター制度改善について

- ・事務局より資料2のとおり説明

【主な質疑応答・意見】

- 委員長：この制度は、これまで多くの方に参加していただいていたが上手く活用できていなかった。もう少し積極的に活用できる方法をこの場で考えようということ。
- 委員：委員の皆様も立場上、言いにくいのかもかもしれない。そもそも制度概要にある「連携して取組を進めていくためのもの」がなっていないなら改善は難しいのではないか。3R夢サポーター・パートナー共に登録メリットが少ないなら登録特典を改善しないといけない。連携する取組として、バーチャル（「リデュースひろば」）で「いいね！」ができることは、登録メリットになるのか疑問。3R夢サポーターのメルマガを廃止で、ブログに統一するのは分かる。3R夢パートナーに登録している企業にとって自動更新はありがたいのではないか。年一回の報告は負担になる。3R夢パートナーの改善案として、インタビュー記事を掲載することだが、年間の記事掲載目標は何社か。その件数によってメリットが多いか少ないかになるのでは。
- 事務局：この制度を見直す上で、良い知恵が浮かばない。委員の皆様から助言やご意見をいただけると事務局としてありがたい。
- 委員：「リデュースひろば」の改修にどれくらい予算をかけられるか。「リデュースひろば」でフェイスブックページを運営することで、市民と企業が結びつきやすく、コストを掛けずに連携できる。参画している企業にとってもPRになるし参画もしやすい。これで今の課題はいくつかクリアできると思う。少し緩やかな形で転換できた方がよい。お金を掛けずに個人や企業の方に満足していただく方法は限られるので、後方支援やPR支援のポイントは押さえた方がよい。
- 委員：3R夢サポーターに登録しているが、何をしてほしいのかが分からない。ただメール（マガジン）がくるだけ。今回の改善案だと「リデュースひろば」で「いいね」やコメントが書けるようになるが、それで何をしてほしいのかが分からない。制度の見直しを検討するなら、この委員会ですら少数のチームを作って検討するのはどうか。「リデュースひろば」を見ると何年も前から内容が変わっていない。文字も多く内容も堅いので、まずそこから変えて、みなさんにとって入りやすく親しみやすいページにして、知りたい情報を載せてほしい。
- 事務局：この制度の改善のために集まっていたかどうかというのはありがたいお話しだが、皆様お忙しい中、改めてお集りいただくのは厳しいと思う。この制度をどのように変えて行ったらいいかは、もう少し事務局で汗をかきたい。事務局から個別に各委員の方にご意見をうかがいつつ、できることできないことを事務局で考えて、再度、案を提示したい。
- 委員長：率直な意見がでた。委員からすると参加する側として、どんな協力を求められているのか。どういうふう役に立てるのか。横浜市として、登録していただいた市民の方・企業の方どのように協調していきたいのかが見えない。改めてメールで各委員へざっくばらんに意見をうかがったらどうか。返事は強制ではなく、意見のある方からの話を集めて、次回までにまとめてみるのもいいかと思う。

（４）情報交換

- 委員：委員から実店舗で「まるごと旬野菜」を使っただけは非常にありがたい話で感謝申し上げます。びんリユースシステムについても、この取組は広く企業に協力を呼び掛けることをやらないのか、3R夢パートナー・サポーターについても同じで、前向きな企業はやってみたいと思うのではないか。びんの回収システムについても名乗りを上げてもらえる企業にやっていただくと実験もうまくいくと思う。3R夢パートナーについても、横浜には自治体初のCSR企業認定もあり、認定企業で3Rを掲げている企業に3R夢パートナーになってもらって連携するのもいい。目標や目的がはっきりしていれば協力いただける企業はたくさんある。

委員：まだ具体案はないが、ある程度の形ができてくれば、取扱店などはどんどん情報発信をしていきたい。そんな時に3R夢パートナーというネットワークを活用するのは面白い。この委員会ももともとは市民からリデュースについての提案があった時にお話ししようという形だった。例えば、このリユースびんで困っているところがあるので、アイデアのある方はいないかと、3R夢サポーターやパートナーに投げる仕組みがあると一つの活用になる。

5 閉会あいさつ（企画調整担当部長）

- ・長時間にわたり、色々な意見をいただきありがとうございました。
- ・まるごと旬野菜は今年度の大きな成果。市民委員や事業委員の皆様から色々なヒントをいただき一緒に作ってきた。このレシピ集もまだ行き渡っていない。続編は作るが、このレシピ集も大事に一人ひとりに説明しながらお配りしていきたい。
- ・びんリユースシステムについても今後も意見交換しながら、引き続き、我々も一緒に関わっていききたい。
- ・3R夢パートナー・サポーター制度改善については、事務局の中でも生煮えのまま出してしまった。厳しい意見もいただき、そもそも「リデュースひろば」はどうなんだというご意見もあり、頭が冷えた。もう一回原点に立ち返って、どこから改善していけばいいのか考えたい。もう一度次回の会議で新たな提案をしたい。
- ・一年間この活動に関わっていただきありがとうございました。
- ・新年度に向けて横浜市でも人事異動の内示があり、河村と松本が異動になる。（一言ずつあいさつ。）
- ・今日は欠席だが、経済局椎葉も異動となる。新たなメンバーが決まれば、改めて紹介します。

第14回 ^{リデュース}ヨコハマ R 委員会

日時：平成29年3月27日(月)
午後2時から
場所：松村ビル地下1階会議室

次 第

- 1 開会あいさつ
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 「まるごと旬野菜」レシピ集の普及に向けた活動報告と今後の展開について 【資料1】
 - (2) びんリユースシステム横浜モデル事業報告について
 - (3) 3R夢パートナー・サポーター制度改善について 【資料2】
 - (4) 情報交換
- 4 閉会あいさつ

次回会議は5月開催を予定、詳細は別途ご連絡いたします。
※場所は、松村ビル地下1階会議室

「まるごと旬野菜～使い切りレシピ～」の普及に向けた活動報告と今後の展開について

1 レシピ集の普及に向けた活動報告

(1) 主な配布先

別添「配布先一覧」参照

(2) レシピに関する反応や感想

- ・非常に多くの情報がまとまっているので、他分野（食育等）の活動でも使用できる（栄養士）。
- ・旬ごとにページが作成されていて、直売所で野菜を販売する際にも食材とセットで渡すことができる。他の野菜のパターンもほしい（はまふうどコンシェルジュ）。
- ・保護者の方から、給食の献立を作成したいとの希望が多々あり適している。内容も「地産地消」「食育」の観点が入っているのが良い（栄養士）。
- ・給食献立がベースとなっていて、健康の面からも活用ができると思った（講座主催者）。
- ・レシピメニューに困っているので参考になる。時短などの要素があるのも助かる（市民）。
- ・外国人の人も来るので、日本料理を紹介することもできる（市民）。
- ・レシピ以外にも食材の保存方法などの豆知識的な情報が役に立ちそう（市民）。



野菜直売所における配布（港南区）



イベント会場での配布（港北区）



子育て支援拠点施設での配布（泉区）

2 今後の展開

(1) 「まるごと旬野菜～使い切りレシピ～」の普及方法

より具体的な行動につながるよう「まるごと旬野菜～使い切りレシピ～」を題材としたクッキング講座の開催を進めるとともに、メインターゲットである子育て世代の主婦層への普及を進めるため、子育て支援拠点施設等へのアプローチを行います。

(2) 続編の作成

引き続き、ヨコハマR委員会市民の皆様にご協力いただきながら続編を作成していく予定です。内容は今後検討を進めてまいります。現在想定していることとして、

- ①栄養士や食生活等改善推進員、はまふうどコンシェルジュ等の「食」に携わる分野の方々の反応がよかった点を考慮し、「食育」や「地産地消」の要素に厚みを持たせたレシピ集にすることで、食品ロス削減の取組を「食育」や「地産地消」などの他分野からも波及していくようにする。
 - ②今回取り上げた「キャベツ」「じゃがいも」「きのこ」「ごぼう」「だいこん」以外の野菜を取り上げ、レシピ集のバラエティを増やしていく。
- の2点を軸に作成に向けた調整を進めていきます。

【配布先一覧】

	配布先	配布部数	備考
市役所	収集事務所	9,000 (500×18事務所)	
	焼却工場	400 (100×4工場)	
	各区地域振興課資源化推進担当	1,800 (100×18区)	・各区で開催しているクッキング講座等で配布 ・地域振興課窓口での配架
	各区子育て支援施設	※	・収集事務所や各区地域振興課経由での配布 →地域子育て支援拠点「すきっぷ(泉区)」 →地域子育て支援拠点「のんびりんこ(中区)」
	福祉保健課健康づくり係	※	・各区福祉保健センター健康づくり係へ活用依頼 (平成28年11月21日)
ヨコハマR委員会	ヨコハマR委員会市民委員の皆様	※	
	パルシステム神奈川ゆめコープ【新規】	※	・組合員向けの「収穫体験講座」などで配布
地産地消関連	「ハマふうどコンシェルジュ」	300	
	JA横浜直売販売所	450	・環境創造局農業振興課経由で活用を依頼(12月中旬)
	地産地消サポート店	94	・ハマふうどコンシェルジュから随時追加配布の依頼あり(平成29年2月末時点で6名)
学校関連	保護者様への配布【新規】	720	・緑区山下小学校(学校の栄養士から配布依頼。お子様経由で保護者様へ配布) ・旭区学校保健会(学校の栄養士による紹介)
	授業における活用【新規】	160	・市立中学校で家庭科を担当する教師に向けて配布し周知予定(平成29年5月予定)。
その他	食生活等改善推進員(ヘルスメイト)	1300	・健康福祉局保健事業課経由で活用依頼(平成28年12月1日) ・18区中13区の中から追加配布の依頼あり。
	社会福祉法人試行会【新規】	100	・管理しているケアプラザで配布すること。

※配布希望がある場合に随時送付

【広報進ちょく】

広報媒体	時期	備考
資源循環局ホームページ	平成28年10月～	
クックパッド横浜市公式キッチン	平成28年11月～	・和風ポトフが一番のアクセス(平成29年1月末時点/約5,000アクセス)。その他は500～1,000アクセス程度。
地域情報紙「タウンニュース」	平成28年11月17日	・広告掲載後多数の問い合わせあり。
啓発パンフレット「きれいなまちに」	平成28年9月～	
啓発ツールへの掲載	平成28年11月～	・3,000個配布

ヨコハマ3R夢パートナー・サポーター制度改善について

1 制度概要

3R夢パートナー・サポーター制度は、3Rの活動を積極的に行い、横浜市のごみを減らすことで、横浜市の未来の環境を良くしていこうという意思を持つ個人・事業者等が「ヨコハマR(リデュース)ひろば」WEBサイト上で参加登録を行い、自主的にリデュースを進めるとともに、横浜市や「ヨコハマR(リデュース)ひろば」の情報を共有し、連携して取組を進めていくためのものとして、平成23年にスタートしました。

	3R夢サポーター	3R夢パートナー
開始年度	平成23年度	平成23年度
登録条件	横浜市内在住・在勤の方	横浜市内に事業所・店舗・活動拠点がある事業者・団体
登録方法	WEBサイト「ヨコハマRひろば」で登録	WEBサイト「ヨコハマRひろば」で登録
登録情報	ニックネーム・居住地・メールアドレス・一言コメント	事業者名・業種・所在地・サイトアドレス・連絡先(担当者・電話番号他)・3Rに関する今後の取組計画と目標・一言コメント
登録特典	<ul style="list-style-type: none"> WEBサイト「ヨコハマRひろば」で公開 サイトや印刷物で利用できる3R夢サポーターロゴデータの無償提供  <ul style="list-style-type: none"> メールマガジンの配信 	<ul style="list-style-type: none"> WEBサイト「ヨコハマRひろば」で公開 サイトや印刷物で利用できる3R夢パートナーロゴデータの無償提供 3R夢パートナーステッカー無償提供  <ul style="list-style-type: none"> メールマガジンの配信
登録数	551人(2017年2月現在) (一度登録すると自動更新)	115事業者・団体(2017年2月現在) (一度登録すると自動更新)
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 登録メリットが少ない。 個人情報が少ない、本市から連絡が取れないサポーターも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 登録メリットが少ない。 登録事業者の業界が偏っている。 登録情報の更新がない。

参考資料



3R夢サポーター募集チラシ



3R夢パートナー募集チラシ



平成23年10月発行チラシ



ヨコハマRひろば概念図

2 3R夢サポーター改善案

ヨコハマRひろば内のブログやイベント情報等のコンテンツへ書き込みができる機能を追加することで、サポーターが活動（意思表示や考え・取組の発信等）できる場を提供します（イメージとしては、ヨコハマRひろばのウェブサイト会員）。

これにより、ヨコハマRひろば立ち上げ時の「3R行動を推進する市民の交流の場」というコンセプトへも近づき、ヨコハマRひろばの再構築（活性化）へ繋げていきたいと考えています。

	現行	変更点
活動内容	特になし	Rひろばのブログやイベント情報欄等のコンテンツに「いいね！」等のボタンの設置、及び「コメント」の書き込みができる機能を追加 →ヨコハマRひろばの一部改修が必要
メールマガジン	月一回配信	廃止（ブログへ統一） 更新情報のみ自動メール配信とする。

3 3R夢パートナー改善案

登録時、WEB上での入力項目を一部変更し、年一回取組内容の報告を必須要件とします。

これにより、登録事業者の情報や取組内容が定期的に更新され、常に最新情報を発信できるようになり、ヨコハマRひろばの活性化へも繋げていきたいと考えています。

また、本市から積極的に新規開拓を行い、3R夢パートナー登録数の増加だけでなく、本市と事業者との関係強化、事業者の環境への取組へスポットがあたるようにします。

	現行	変更点
入力項目	3Rに関する今後の取組計画と目標、一言コメント ※初回登録後、更新がない	3Rに関する取組計画と報告（年1回） →ヨコハマRひろばの一部改修が必要
補足		特色ある取組報告をした事業者のインタビュー記事を作成し、ヨコハマRひろば内で掲載
メールマガジン	月一回配信	廃止
新規登録	一般廃棄物対策課からの紹介・自然増	これまでの取組に加えて、本市側から事業者へ新規開拓を行う

4 今後のスケジュール

年度	内容
平成28年度	制度改善について事務局案検討
平成29年度	第14回（3月）・第15回（5月）のヨコハマR委員会で新制度案を固め、ヨコハマ3R夢プラン（一般廃棄物処理計画）第3期計画に反映
平成30年度	新制度スタート